

平成30年度 第1回医療系フォーラム実験小委員会 議事概要

- I. 日 時: 平成30年4月19日(木) 18:00~20:00
II. 場 所: 公益社団法人 私立大学情報教育協会 事務局会議室
II. 出席者: 片岡座長、神原委員、原島委員、山元委員、小原委員、中山委員(Skype)、二瓶委員(Skype)、井端事務局長、森下、中村

III. 資料

資料1 医療系分野フォーラム型実験授業の詳細設計案(30年4月19日版)

- 資料① 審査申請書
資料② 研究実施計画書 資料③ 学生さんへ 資料④ 同意文書(大学保管)
資料⑤ 同意文書(学生保管) 資料⑥ 研究協力同意撤回者
資料⑦ 協力のお願ひ資料⑧ 資料⑧ 臨床研究実施体制チェックリスト
資料⑨ 研究実施計画記載項目チェックリスト
資料⑩ 患者説明文書記載項目チェックリスト
資料⑪ 参加学生(案)
平成29年度第7回委員会義気概要

IV. 議事概要

1. 事務局からの報告事項

- ・本年度から北海道医療大学の二瓶先生に委員として参加いただくことが報告された。
- ・前回(平成29年度第7回委員会)の議事概要について報告・確認された。
- ・前回検討した実験授業の詳細設計(案)について、「解決していくには」、「答えが定まらない」などの表現の修正、ルーブリック評価への修正、授業の流れの「中間的な発表」の表現修正、授業の時間数、間隔など明記などについて報告した。

2. 実験授業詳細設計案について

片岡座長から、前回の検討を踏まえた「実験授業詳細設計案(30年4月19日版)」について以下の説明が行われた。

① 目的と概要

将来が予測できない時代に社会の課題を解決していくためには、答えが定まらない具体的な問題を多面的に捉えて解決を目指すグループ学修が、生涯学修につながるアクティブラーニングとして極めて重要である。ここでは、健康長寿社会に活躍できる人材の育成を目指して、多分野の人たちとともに主体的な学びの能力を身につけさせる。そのためにこの授業では、保健、医療、福祉、介護、栄養の分野横断した学生グループが ICT システムを活用して社会で起きている問題に取り組み、20年先の自職種の未来像を考える。

② 方法

2段階で実施するが、今回は第1段階の実験とする。

③ 授業の概要

- 1) 2段階で実施する分野横断型授業の第1段階として2年生を対象に実施する。
- 2) 対象は医学、歯学、薬学、看護、福祉介護、栄養学科2年生各3名 計18名である。
- 3) 上記6学科各1名、計6名で1グループを構成し、3グループとする。
- 4) グループ分けとグループごとの日程調整は授業開始2週間前までに行う。
- 5) 授業実施期間は2018年7月~9月のうち約1ヶ月間とする。
- 6) ネットオリエンテーション後、4回のネット授業と自己主導型学修を実施し、ネット授業間隔を最低4日空ける。
- 7) 1回のネット授業は90分から2時間程度とする。
- 8) 各グループにファシリテーターとして1教員を配置する。具体的には小原先生、中山先生、原島先生にお願いする。
- 9) ネット授業4には実験小委員会メンバーは全員参加する。

- 10) 学生が所有するPCでGlexa(グレкса)という学修支援システム(Learning Management System)を活用する。
- 11) G suiteを活用して、25台のPCを接続するとともに、ネット上のディスカッションに関するマナーを事前に学ばせる。

ここでの主な意見

- ① 目的と概要で、「ICTを活用して社会で起きている問題に取り組む」は、今起きている問題に取り組むのか、将来を予測した問題に取り組むのかが分かりにくい。
 - ※ ここでは、多分野の学生グループがICTシステムを活用して、分野を横断して社会の問題に取り組むようになること、分野を横断する中で自分の職種を将来の職種を考えることが大切なので、「ICTシステムを活用し、分野を横断して、社会の問題に取り組む」とすることにした。
- ② 2の方法のところで、目的と概要を踏まえて、第1段階、第2段階にした背景を明示する必要があるのではないかと。
 - ※ 学生の発達段階に応じて2段階で実施する。第1段階は分野横断型学修の学修をさせる中でプロダクトとして20年後の自職種の未来像を作ってみる。
 - ※ 第2段階は、臨床分野横断型学修で対象が3・4年生だが、ここは4年生以上にして、臨床的なテーマで健康長寿社会の実現を考える。
 - ※ 第1段階は一市民としてあまり専門性は強くないが、第2段階は医療人として考える。
 - ※ 目的と概要に「20年先の自職種の未来像を考える」が入っているので、第2段階の「住民の健康を考える」にうまく結びつくのか。自職種の未来像だけでなく、やはり医療人として地域における住民の健康を考えると何か、医療人としての何か健康を何かこう構想するとか、何かそういうものでないといけないのではないかと。
- ③ 目的と概要は第1段階で考えたが、第2段階を考えると修正が必要になる。そういう意味では目的と概要は健康長寿社会の実現を考えることにしないといけない。
 - ※ その方が説得力がある。第1段階は、分野を横断する中で自分の職種を将来の職種を考える。第2段階は健康長寿社会の実現を考える。そうすると第1段階、第2段階を2つ分けた理由が明確になる。
- ④ 授業の概要が分かりにくい。
 - 20年先の自職種の未来像を考えさせるためには、どういう授業設計をしたかということを書かないといけない。分野横断的な視野で、広く物事を捉えるロジカルシンキングの訓練をすることを明確にする説明が必要なのではないかと。
 - ※ 3ページでクリティカルシンキングの図が出てくるが、クリティカルシンキングをやるために2年生で、こういう授業デザインを考えていることを前面に出す必要がある。授業の概要の説明は後でも良いのではないかと。
 - ※ その次に、この授業のまさにオリエンテーションの図(2ページのもの)、これをはめ込んで、その後に1から12コマの授業を実施するための細かい条件付とすべき。クリティカルシンキングと図2は大事なので、最初のほうに出来るだけ出すように修正してはどうか。
 - ※ よく読ませるようにしないと初めての人には分からない。すっと入れるように、ストーリーテリングを作らないといけない。
 - ※ だいたいこの流れで、最初の入り方を上手く工夫すれば良いのではないかと。片岡先生にある程度作っていただいたら事務局も入って摺り合わせして完成させるようにしたい。

3. 学生が身に付ける能力、コンピテンシーについて

片岡座長から、「学生が身に付ける能力、コンピテンシー」として以下の説明が行われた。

- 1) 与えられた情報を鵜呑みにせず、複数の視点から問題を発見できる。
- 2) 自分の意見を分かりやすく他者に伝え、他者の意見を傾聴し、積極的で効果的なグループ討議ができる。

- 3) 問題解決のために、エビデンスの高い適切な情報を活用できる。
- 4) 問題解決のプロセスとその結果について、分かりやすく発表しレポートを書ける。
- 5) 適切な自己評価とさらに改善する方法を模索できる。

4. 分野横断型授業の進め方について

片岡座長から以下の説明が行われた。

分野横断型授業の進め方については、ネットオリエンテーションの後、4回のネット授業と自己主導型学修を実施し、授業間隔は最低4日間は空ける。1回のネット授業は90分から2時間程度とする。

ネットオリエンテーションでは自己紹介と学生グループが課題に取り組むために最低限必要な情報、取り組み方を提供する。

- ① ネット授業1はビデオの視聴で超高齢化に伴うニーズの変化を意識させるビデオ、医療経済、AIなど、今後の動向や課題に関連する映像の視聴を行う。
- ② 自己主導型学修1では、NHKスペシャル「あなたもなれる“健康長寿”徹底説明 100歳の世界」を視聴して、自分が健康長寿を送るためにどのようにするか考えさせる。
- ③ ネット授業2では、自己主導型学修の成果をグループ内で共有して健康長寿を妨げる要因を整理し、病院間の関係をグループとして図示したプログラムを起こす。これがグループプロダクト1になる。
- ④ 自己主導型学修2では、健康長寿社会を実現するために自職種がどの様にすべきかを考える。
ネット授業3では、20年後の自職種の未来像をグループ内で共有し、保健、医療、福祉、介護、栄養を担う自職種の未来像を説明する資料を作成する。これがグループプロダクト2になる。
- ⑤ 自己主導型学修3では、健康長寿社会を実現するために、未来像のなかで保健、医療、福祉、介護、栄養の関連職種とどのように連携するかを考える。
- ⑥ ネット授業4では、全体説明会として、保健、医療、福祉、介護、栄養を担う自職種の未来像と自職種間連携についての説明会を行い、最終プロダクトを作成する。これがグループプロダクト3になる。
- ⑦ 自己主導型学修4では、20年後の自職種の未来像について各自が最終提出物を作成する。そして取り組みや学びについて、eポートフォリオを活用して省察を行う。

5. 評価について

片岡座長から以下の説明が行われた。

4. に示した「能力、コンピテンシー」について以下の評価を行う。

- 1) 問題発見能力については、(多分野の視点がどの程度反映されたか?)プロブレムマップのルーブリック評価
- 2) コミュニケーション能力についてはネット授業1~3において、グループ内学生とファシリテーターによるルーブリック評価とネット授業4(全体会)における他のグループ学生と教員によるルーブリック評価
- 3) 根拠になる情報活用については最終提出物の参考文献についてのルーブリック評価
- 4) 問題解決能力については自職種の将来像の最終提出物についてのルーブリック評価を行う。
- 5) ポートフォリオによる振り返りについて、自己評価能力と今後の学修意欲についてルーブリック評価を行う。

なお、ここでは3段階のルーブリック評価を作成することを計画している。

6. 事前準備について

片岡座長から事前準備について以下説明が行われた。

- 1) 倫理委員会申請
- 2) 学生募集用ポスター作成
- 3) ICTシステムの構築と活用マニュアルの作成
 - (1) 資料提示
 - (2) ネット授業
- 4) ICT環境のチェックとICTオリエンテーション
 - (1) ノートPCの無料貸出 (対象: ノートPCを持っていない学生)

- (2) 機能チェックとネット上のインタビュー(必要に応じて)
- (3) 自己紹介を兼ねたテスト通話と掲示板機能を活用したプロブレママップの作成
- (4) グループのテストネット授業を実施し、ネット授業で使うソフトや機能をあらかじめ練習する。
- (5) オリエンテーションとネット授業1~4の日程調整とグループの編成

1番が稟議委員会の申請、2番目が学生募集用のポスター作成、3番目がICTシステムの構築と活用マニュアルの作成で、(1)は、ICTシステムを活用するためのマニュアル作成、(2)がネット授業のトライアル。そして4)が学生ガイドとファシリテータ用ガイドの作成で、(1)授業の進め方を逐一説明する学生ガイドの作成、(2)ファシリテータ説明会の実施5)がICT環境のチェックとICTオリエンテーション、これは授業実施2週間前には完了しておきたいと思います。

(1)でノートPCを持っていない学生への無料貸し出し、(2)で機能チェックとネット上でのインタビュー。これを今日みたいな環境で学生とやって、インタビューをしながら操作ができるかどうかをやる必要がある。

(3)では、自己紹介を兼ねたテスト通話と掲示板機能を活用したプロブレママップの作成。これもあらかじめ練習させたい必要がある。

(4)では、グループのテスト的なネット授業を実施し、例題についてグーグルドキュメントを用いてグループで共有し、ネット授業で使うソフト機能をあらかじめ練習する。これは授業に入らないが、これを自己紹介を兼ねて簡単な課題で一回やらせていくとスムーズに進むと思う。

(5)のオリエンテーションとネット授業1から4の日程調整とグループの編成では、募集の際にある程度日程が合いそうな学生同士でグループ組ませることが必要かと思う。

経験のある二瓶先生、VERSION2(グレクサ)の大西社長と何回か相談をしたが、3グループ同時スタートというのがちょっと危険ではないかと思うので、まず1グループでパイロット的に実施して、そこでいろいろなノウハウを取得してから2グループ、3グループやったほうが安全ではないかと考えている。初めてのことがあまりにも多いので、トライアルの期間が必要ではないかと思いそれで進めさせていただきたい。

7. 授業の内容

7番、授業の内容の(1)、ネットオリエンテーション約30分では、一緒に動画を視聴するのではなく、最初は各自に視聴させ、オリエンテーションでは、質問とか感想を受けるということにしたい。

オリエンテーションの内容は、①ICTを活用した本授業の目的と進め方について、②ICTグレクサや学生ガイドの活用方法、プログラムマップの作成方法など、それから③がアクティブ・ラーニング、クリティカルシンキングについてということにしたい。

先ほど話したように、3グループのオリエンテーションは個別に実施することにして、最初のグループのオリエンテーションは7月中旬に実施したい。

2回目以降のオリエンテーションは1回目のオリエンテーションビデオも活用して、質問に対してネット掲示板で受け付けるということで進めたい。

ICTで全部やるとしたら、それぞれの学生の持っているパソコン、ソフトがどれくらい扱えるかというのを個別にあらかじめ確認して、ビデオを試聴させ、そのあとでネットオリエンテーションを実施し、質問を受け付ける、質問も掲示板機能を使って、それに答えるような形であれば、時間の束縛もかなり減るだろうとは思っている。

ただ、学生同士のアイスブレイキングが必要なので、6ページの5)の(4)の簡単な例題みたいなものを使って、自己紹介しながら例題に取り組むということ、授業前にやらせて、仲良くなって、この時にネットのマナーなどもお互いに少し理解することをあらかじめやっておくことを考えている。

7番の(2) ネット授業1、約60分では、動画を事前に各自視聴しておき、ネット授業1では質問を受け付けると書いているが、ディスカッションさせることを考えている。

① 高齢化に伴うニーズの変化を意識させるビデオのは、「人生100歳時代」というカナダの心臓病学会が出しているビデオ、②がが療経済、AIなどの今後の動向や課題に関連する映像を紹介ということで、AI、人工知能、医療への活用、Watson と医療経済、三浦先生の講義を録画してみるということで、ここではビデオを見た感想を共有するとか、キーワードを抽出するとかということグループワークとしてやらせ

るということを考えている。

ネット授業1ではビデオを見るというよりは、ビデオはあらかじめ見ておいて、感想を共有したりキーワードをあげたりということをここでやるようにしたい。

4ページの参考資料では、6本の資料が、いわゆる公式の参考資料で、それ以外にこういうもありますよという分野別の参考資料を提示している。③は必ず目を通す資料。④はこういうのもあると参考に提示することを考えている。

(3)は自己主導型学修1ですが、NHKスペシャル「あなたもなれる“健康長寿”徹底解明 100歳の世界」を視聴して、自分が健康長寿をするためにどのようにするかを考えるということで、課題が2つあり、課題1が健康長寿を妨げる要因を整理し、異文化関係を図示したプロブレムマップを作成すること。

課題2が、自分が健康長寿を送るためにどのようにするか説明する資料を作成する。これが、自己主張型学修の1になる。

(4)のネット授業2では、課題1、課題2について、まず成果をグループ内で共有した後に、健康長寿を妨げる要因を整理して、病院間の関係をグループとして図示したプロブレムマップ、これをグループプロダクト1として作成する。ここでグーグルドキュメントを使うとグーグルでの共有ができる。

グループ内で作ったもの全てが共有できるようにプロブレムマップを作るソフトも、グエクサの中に入れてもらうようにしている。

基本的には、プロブレムを書き込むキーワードを書き込む箱と矢印(片矢印、両矢印)があつて、線で引き、移動し、言葉を打ち込み、位置ドラッグして、繋げるようなイメージで作成できるので、これを使うことで、皆で見ながらディスカッションするというのもできる。

評価に関しては、プロブレムマップ作成のプロセス、グループプロダクトから6分野の学生のグループファンクションを解析して、各分野の学生がディスカッションをどのように、どの程度貢献しているのかを測定したい。この測定が難しくても、最終的なプロダクトを見ればどうだということも後で評価できるかと思えます。

また、ピア・レビュー機能というのが別にあり、学生同士が、この学生が頑張ってくれたとか、何も一言も何も言わなかったとか、グループディスカッションへの貢献度を学生が相互評価するということと、ファシリテータも学生ディスカッションをルーブリック評価するということです。

(5)自己主導型学修2では、健康長寿社会を実現するために、自職種はどうする、どのようにすべきかを考えるということで、課題3は健康長寿社会を実現するために20年後の自職種の未来像を説明する。

(6)ネット授業3では、20年後の自職種の未来像をグループ内で共有して、保健、医療、福祉、栄養を担う職種の未来像を説明する資料を作るのがグループプロダクト2でこのネット授業3も同じようにピア・レビューとファシリテータ評価を行う。

(7)自己主導型学修3では、健康長寿社会を実現するために未来像のなかで、保健、医療、福祉の関連職種がどのように連携するかを考えるということで、先ほどの2段階目は、ここがメインになるかと思えますけれども、今回は自職種の未来像がメインで、連携に関してはまだ2年生は難しいだろうということですが、いちおうトライはしてもらうことを考えている。

課題4は健康長寿社会を実現するために20年後の保健、医療、福祉、栄養を担う職種間連携の未来像を説明する資料を作成する。

(8)ネット授業4は、保健、医療、福祉、栄養を担う職種の未来像と他職種間連携について、他のグループと小委員会の・・・表に対して説明を行う、説明後、指摘された点やディスカッションをふまえてグループの最終プロダクトを作成する。ネットを活用しているので、質問は書き込み、ネット掲示板で書き込み式の質問形式を活用する事ができる。25名が同時接続というのを考えた場合は、なかなか質問しづらい場合は、この書き込み式の質問もありうるということですが。

(9)、自己主導型学修4、課題5、授業1から4を振り返りeポートフォリオを作成する、20年後の自職種の未来像について各自が最終的にレポートを作成する。

8. ICT環境

5ページのICT環境については、一番大事なのが学生の学修行動をいろいろな形でモニターして、ビデオの視聴、自己主導型学修、ネット授業の快適度、満足度が低い場合、速やかな対応を行わ

ないといけないことと思う。

ファシリテータは何かあの子がちょっと繋がらないとか、何か意見があれば報告をしてもらおう。もう一つは、グループ学修、ファシリテータ、ネット会議システム、クラウドソフト等を利用するにあたって、予期せぬトラブルが発生した場合に備えて代替手段をあらかじめ用意する必要がある。例えば、ネット会議で音声トラブルが生じた場合を想定してチャットもできるようにするとか、文字入力の苦手な学生の場合には、スマホが使えること。映像にトラブルが生じた場合を想定して、学生個人のスマートフォンの映像が使えることも検討したい。これらは、主に VERSION2 の業者のほうに検討してもらおう。

予定した日に参加できない学生がいるなどの問題は何とか避けたいといけない。先ほど申し上げたように、とにかく本当に上手くいくのかどうかというところは未知の部分が多いので、まずは1グループやってみて対策を練ってから、2グループ、3グループやったほうが無難ではないかということで、まず7月中に1グループやってみることが必要ではないか考えている。

ここでの主な意見

- ① 確認ですが、最初の目標と概要は第1段階と第2段階の両方合わせた目標と概要なのか、第1段階の目的と概要なのか。
 - ※ 目的と概要は、最後は健康長寿社会の実現を考えることを目標として、第1段階は主にまず20年後の自職種の未来像を考えることにしたが、第1段階を20年先の自職種の未来像を作成すること。第2段階では健康実現社会の実現を考えるということをはっきりしたほうが良いと思う。
 - ※ キーワードは、個人、自職種、連携、社会、と4つなので、個人、と、自職種までを第1段階、連携と健康長寿社会を第2段階に入れることですっきりする。
- ② 第1段階でも連携について少しは考えるにしても自職種もよく分からない段階で連携はまだわからないと思う。
 - ※ 連携やお互いの職種を理解するということは必要と思う。ここでは重なる部分を理解するのが大事なのではないか。
 - ※ 第一段階の最終プロダクトはあくまでも自職種の未来像なので、自己主導学習3で「どのように連携すべきか」を考えるのは無理ではないか。
 - ※ 「考えさせる」程度で、自職種をしっかり分かるために連携にちょっと踏み込んでみると程度ではないか。
 - ※ 自職種の未来像をグループ内で共有し、多くの職種人たちとの関係を共有し、理解するという程度に留めないと突然ハードルがすごく高くなる。
 - ※ 重なる部分を認識させるというのはとても大で、自分の職種の独自性みたいなところを理解するには、多分野の理解が必要、自分を理解しながら、他との違いをまとめるようにしてはどうか。
 - ※ 「連携を考えられるようにする」、その素地を作っていくのが第1段階ではないか。
 - ※ 連携を考えることは社会を考えること、それは次のステップ第2段階で良いと思う。
 - ※ 「どのように連携すべきか」というと、具体的な連携に行ってしまうので、それぞれ関係があるから、今回一緒に学修しているという事が分れば良い。

8. 授業設計(案)の修正について

以上の検討を踏まえて、目的と概要、1段階目の目標、2段階目の目標を明確にして修正する。

第一段階と第二段階の図は文章で表現する。自己主導学習3の「どのように連携すべきかを考える」は「関連性を考察し未来像を考える」に修正することにした。

また、授業設計(案)の構成については、ねらいを明確にするため、1. 目的と概要→2. 方法、→図1 (クリティカルシンキング) →図2 (ICTを活用した分野横断型授業) →4. 学生が身につける能力 (コンピテンシー) →5. 評価→図3 (分野横断授業の進め方) →6. 事前準備→7. 授業の内容の順にすることにした。

9. 倫理委員会審査について

昭和大学で審査を受けることにし、資料にもとづいて報告と、意見交換が行われた。

- ・ 研究責任者「片岡座長」、分担研究者「各委員」、研究実施期間は2021年3月31日まで
- ・ 個人情報管理責任者は、北海道医療大学の二瓶先生にお願いする。
- ・ 研究の名称は、「ICTを活用した低学年学生による医療系分野横断型学修の実施と、その教育効果の測定としている。
- ・ 実施体制としては、昭和大学内の研究体制は、片岡座長と山元委員、全体の研究体制では、分担研究者は、東邦大学が高松先生、慶應義塾大学が三浦先生、大阪歯科大学が神原先生、日本社会事業大学が小原先生、北里大学が中山先生、神奈川工科大学が原島先生、事務局は責任者の学内におくということ昭和大にしてはいる。
- ・ 研究の背景及び目的は、資料②の「研究実施計画書」に以下のように記載している。

研究の背景

現在日本は、医療者のみでは健康長寿社会を実現できないほど複雑な社会になっている。健康長寿社会を実現するためには、社会を構成する多分野の連携が必要になる。そのために共通言語を持ち、専門分野の内容を専門以外の人たちに説明し、他分野の人の説明を理解することができる、より広い視野を持つ人材を養成するための多分野連携教育を推進していく必要がある（日本学術会議 2011）。これらのニーズに対応できる人材を養成するために、地域と住民の健康をテーマとして多分野の学生と教員によるICTを活用した分野横断型教育支援システムの構築により、主体的問題解決能力を養成する学修システムの開発をめざす。

研究の目的

本研究の目的は多分野の教員が協働して学修用教材を作成し、ICT（e-ラーニング、e-ポートフォリオ、web会議システムなど）を活用して単科大学の学生でも参加できる複数大学の多分野学生グループを対象とした健康長寿社会の実現に貢献する人材を養成する分野横断型学修システムを開発することである。多分野の学生グループ（1グループ6名）による分野横断型授業を実施する。1) ビデオの聴講が動機づけに与える影響、2) グループ学修テーマが方向付けに与える影響、この学修テーマが継続的理解につながり、また今後の学修意欲の向上にも寄与したかを検討する。特に修得した知識を実際に応用して解決を試みる多分野の学生、教員間での分野横断型授業実施による効果を調べた取組みは、渉猟した範囲では報告がなく、多分野の方がより問題を多面的に捉えることができるため独創的である。その教育成果を検討し教育法の改善も図る点では、創造性も兼ね備える。

- ・ 研究の方法及び期間の4-1 実施施設は、

東邦大学、慶應義塾大学、昭和大学、大阪歯科大学、日本社会事業大学、北里大学、神奈川工科大学の医学、歯学、薬学、看護、福祉介護、栄養学科の低学年学生各3名を対象として、各学生は自宅などでICT（Glexa）を活用してWeb授業を実施する。授業に際しては、医学、歯学、薬学、看護、福祉介護、栄養学科学生の計6名がグループを形成し、ネット上でディスカッションを実施する。

ここでは、未成年は親の承諾等が必要なので、参加は20歳以上の学生とし、自宅等でICT、を活用してWeb授業を実施、6名がグループを形成して、ネットディスカッションを実施する。

- ・ 修正意見があり、ICT、グレксаは「ラーニングマネジメントシステム」とすることにした。
- ・ 4. 6は、研究中止基準で学生は途中で受講を中止する、あるいは終了後も学修履歴、プロダクトを研究に活用する、拒否する権利を担保する。
- ・ 解析方法は授業設計の通りで、研究対象者の選定基準は、5-（1）で参加は本人から文書同意が得られた学生になる。目標学生数3年間で今回18名ということで、最初3グループで実施すし、3年間で60名と仮に設定している。
- ・ 科学的合理性の根拠は、学問基盤型から分野横断型教育というのがハーデンの文献、日本学術会議の連携を深めていくという文献を考えている。
- ・ 7番のインフォームドコンセントを受ける手続きなどは、研究講義における稟議委員会の承諾が得られた説明文書、同意文書を研究対象者に渡し、文章及び口頭による十分な説明を行い、研究対象の自由意思による同意の文章を得ることにしたい。
- ・ 8番目、個人情報などの取り扱いは連結可能匿名化をするということで、学部学科情報は残しますが、個人を特定する情報はすべて外して、個人情報管理責任者が保管する。
- ・ 9番目の負担とリスクは、本研究で実施する授業によって大きな不利益が出ることはないとし

ている。

- ・ 10-1 番の試料・情報の保管及び廃棄は、最大10年間保存、保管するということが、5年間であれば良いとの意見もあり、可能であればそのように検討したい。

ここでの主な意見

- ① 試料・情報の保管及び廃棄は、最大10年間保存なので確か5年でも大丈夫と思う。
- ② 保管していないと何か訴訟などで何か問題になった時に証拠がないので保管が必要。
- ③ 保管は、USBは多分駄目で。外付けハードディスク等は必要。
- ④ 連結可能匿名化という表現で良いか。今までは連結不可能匿名化だったが、連結可能匿名化が可能になったのか。連結不可能では研究が出来ないのでそうなったのか。確認する必要がある。
- ⑤ 暗号化し、鍵のかかるところに保管する、外部から切り離す、コンピュータ、ハードディスク、パスワード管理など必要に応じて修正する。
- ⑥ 研究対象者の相談対応などは昭和大学で対応する。
- ⑦ 研究結果の公表、13-2は、本研究実施計画書に基づいて行われる研究結果は、公益社団法人私立大学情報教育協会と実施教育機関の共有のものとするとしている。
- ⑧ 23の業務委託だが、グレクサを使用するのでVERSION2という会社を入れる必要がある。委託ではないが、システムを利用し、学生の使い方などのヘルプデスクをメールで対応する。お金を払って、半年間サーバーとシステムを借りるライセンス契約です。
- ⑨ 学生個人情報の管理、サーバーやクラウドに集めるのか、その管理を誰がするのかということがある。全部のログ、ポートフォリオとか、いろいろなものの管理はどうか。
- ⑩ 業者は中身に入れないで、二瓶先生が管理者として情報の使用先、保管、情報保護等を責任持ってやるので業務委託ではない。
- ⑪ 今回のデータはクラウドサーバーの中に入ってくるので、そのあたりを考慮した書き方が必要。
- ⑫ 匿名の件だが、たぶん匿名加工という形になっているかと思う。大学ごとに参加人数が数名なので、結構誰だか特定されやすいので匿名化、匿名加工に気を付けてやる必要がある。
- ⑬ 例えば大学でA、B、C、Dと振って、学生はA-1、A-2、A-3、あなたはB-1、B-2、B-3というような形にする。メールアドレスもGmailをこちらで作って、それで登録するとかの工夫なども考える必要がある。
- ⑭ メールアドレスはグレクサのIDとパスワードを配るのに必要だがそれ以外にはいらない。ログインした時にIDとパスワードを入れれば良い。
- ⑮ 倫理委員会の審査については、この内容で、申請し、修正するところは修正する。条件付きで修正が来た場合には、そこで直すという形のほうが早いかもしれない。
- ⑯ 細かい点だが、段落が出っ張ったり引っ込んだりしている部分を見直す。
- ⑰ 学生への説明は「学生さんへ」では、少し噛みくだいてスケジュールや予定時間、内容を説明している。なお、参加学生への謝礼などは行わない。
- ⑱ それと資料⑦で「学長へのお願い」と資料④と⑤「学生の承諾書」があるが、各大学が認めて、それから学生に承諾を得るという2段階構えになると思うので、資料⑦の「学長へのお願い」に加えて「学長の承諾書」を用意する。(学長でなく学部長でも良い)
- ⑲ これは、昭和大学で審査を取ってからになる。
- ⑳ 資料⑧の臨床研究実施体制チェックリストで、研究分担者の先生方に研究倫理に関する講習の受講日をいただきたいので、事務局で集めていただきたい。
 - ※ メールでいただいて片岡先生に届けるようにします。
 - ※ まだ今年度開かれていなくて日程が分からないが、去年のではどうか。
 - ※ 新しい倫理趣旨に基づいた講習会受けていないと、古いのは駄目だと思う。
 - ※ 1年に1回なので、去年の受講が1年有効と思うが、今年については受講予定日を書いていただければ良い。(昨年度の日付と、今年度の受講予定)
- ㉑ 資料⑩が患者説明文書になっているが学生に修正する。

② 先ほどの個人情報だが、学生個人の名前や個人情報に触れるのは、ファシリテータだけで、業者はまったく触れなくて良い。学生が決まった段階で、学生に番号をつけ、表にした後、全部匿名化して置きかえれば良いのではないかと。

※ ディスカッションする時には、名前で向き合うのです。ファシリテータも山元さんでなく、A大学の5番さん何ていうのか。

※ 名前で呼ばなかったらおかしいし、自己紹介はどうするのか、私はAですって。

※ チャットとかをそういうものはグレクサの中に残るが、グレクサを借りる時に、外に漏らさないで責任を持ってデータを廃棄する一筆取っておくとか。

※ それは既に多くの大学でグレクサを使っているので、当たり前のことだと思う。ポートフォリオの中に勝手に業者が入り込んだりすることは絶対ありえない。

※ そういうことをVERSION2さんに確認しておけば良い。

※ データの引き上げはどういうふうにするのか。

※ 北海道大学をはじめ、いろいろな大学でこのシステムを使っている。期間が終わったら、そこで使ったこの学生のデータはちゃんと廃棄する。使用期間中は、情報が外部に漏れるようなことのない機密保持をすることの文書を取っておく。

※ VERSION2については、いちおう確認をとるが契約で信じるしかない。

この内容で、気付いたところを加筆修正して、連休明けくらいには迅速審査でかけたいと思う。その後に募集を開始して、夏休みで考えると6月中くらいに学生を決めないと厳しい。

10. その他

① これで審査が終われば、可能であれば、先生方に学生にお声かけをお願いして募集したい。

② 少なくとも学生だけは決めていきたい、ある程度手続きは後になってしまっても。

③ 学生募集用ポスターは、VERSION2にどんなICTを使ってちょっと未来志向の授業やるといようなものを考えてもらっている。いちおう原案は5月中に出します。

④ 対象が2年生で20歳以上だが、2年生の6月だと20歳に達している学生が少ない。しかし20歳以上でないと保護者の同意書が必要で大変になる。

※ 授業開始時点で20になる学生はその時点で書いてもらう。それでも8月では厳しいので夏休みでなく、2月、3月に伸ばすか、何とか夏休みまでに20歳になる学生を集めてやってみるか。ちょっとずらして、9~10月頃にするとかも考えられる。

※ まず7月に1回やってみて、対応をいろいろ考えないといけない場合は、秋になってしまふかもしれない。最悪の場合冬休みになってしまう。

※ ずらした場合、残りの2グループ、3グループ目はどういうふうにするかと合流するのが難しい。せめて2グループはなければいけないと思っている。7月とか9月とかだと冬になったら忘れてしまうので基本的にこの期間で実施することを前提に考える。

⑤ ICTの使い方のところで、みんなが同じレベルに立って「せーの」で始められるのかが不安である、

※ 練習期間を十分取りたいのが本音で、まず委員がグレクサ使って練習しないとダメ。業者さんの力も借りて、教えてもらいたい。

※ 使い慣れていないが、グレクサは一般的なMoodleよりはるかに使いやすい。ボタンも少ないし、操作は割と容易でそんなに難しくはない。

※ ソフトは、矢印などで皆で共有でき、グーグルのドキュメントみたいな形で、皆で見ながら操作できるが、やってみるしかないのだから、次回の委員会それでやったらどうか。実際やってみないとわからない。

※ 事前にインストールしておいて各委員が自分のコンピュータでやってみる。

※ 契約は6月から半年を予定しているので11月末まで利用できる。

※ 11月で終わらない可能性もあり、10か月の契約にできないかは相談してみないと何とも言えない。

- ※ 使えるようになれば別に委員会をここで開かなくても各先生、それぞれの場でグレクサ会議ができるのではないか。
- ※ 6月に入れば、各委員にグレクサのID、パスワードをお渡ししグレクサ上で1回ためしに委員会をひらいて自分たちで経験してみることも可能ではないか。
- ※ 二瓶先生の意見「うちの大学はすべての学部でグレクサ使っていますが、操作は先ほど片岡先生のお話のようにすごくやりやすいです。」
- ※ トライアルについてVersion2に事前に相談してみたい。原則としては6月から半年間という形で考えている。
- ※ 学生やる前に一度委員会でグレクサ会議をやってみる。学生にいう前に、自分たちが使ってみるようにしたい。
- ※ グレクサの方に相談をして、協力いただけるようでしたら早めに実施したい。

11. 次回日程

調整の結果、次回は6月12日（火）18時から、可能な先生はグレクサで会議に出席いただくことにした。

審査対応は進めて行くことにしても公募時間が十分ない中で学生の募集を進めないといけないので委員の先生には参加学生の声かけをお願いしたい。

なお、参加学生は末休み（お盆）までに20歳になる学生とする。